

新聞販売業における 労働災害防止対策

新聞販売業における主な労働災害は**交通事故**です！



交差点を通行する際は、細心の注意をはらい、左右を良く確認しましょう。

栃木労働局 各労働基準監督署

ホームページアドレス

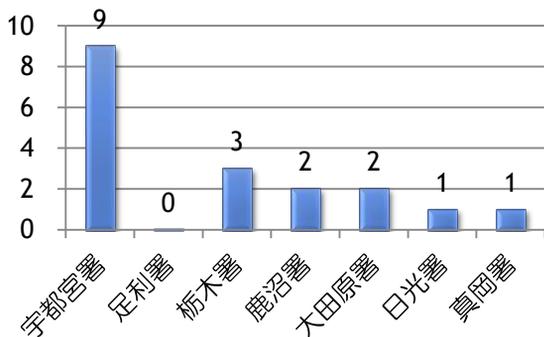
<http://www.tochigi-roudou.go.jp/>

新聞販売業における労働災害発生状況等について

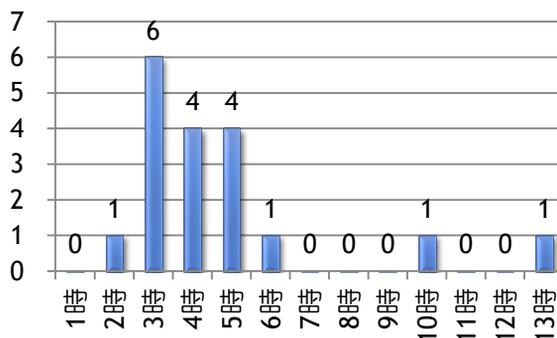
新聞販売業における死亡労働災害の発生状況は、平成15年から平成27年1月末までの約12年間に18人が被災し、その内交通事故による災害は17人（約94%）を占めています。中でも、交差点での出会い頭などによる災害は、10人と多発しています。（次のページ下欄参照）

死亡災害の内容は次のグラフのとおり

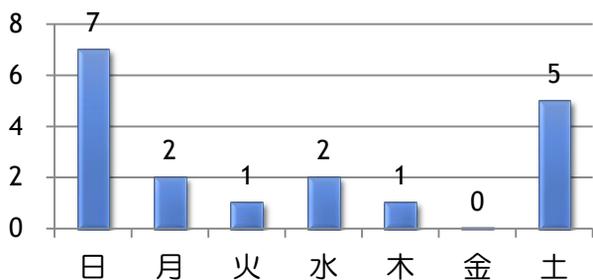
監督署別



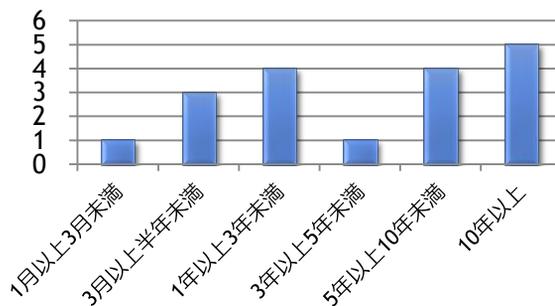
時間帯別



曜日別



経験年数別



再発防止対策

- ① 新聞配達区域の危険箇所の洗い出しによるヒヤリマップの作成及び周知
- ② 交通ルールを順守するため、ヒヤリマップの活用等による安全教育の実施
- ③ 危険予知(KY)活動による、交差点進入時の減速及び左右確認等の安全確認の励行
- ④ 新聞配達時のバイク運転中のライトの点灯及び、蛍光ベルトの着用等目立つ格好での走行による安全の確保する
- ⑤ 余裕ある配達作業時間を確保し、安全行動を励行する
- ⑥ 交通労働災害防止のための管理体制の確立 ～ガイドライン～
- ⑦ リスクアセスメントの実施により、労働災害の防止を図る

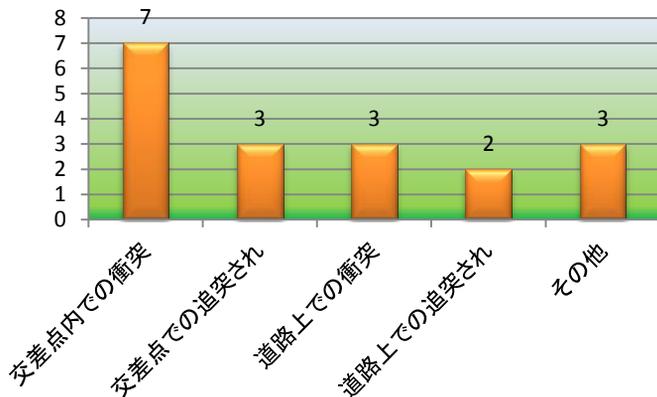
以上の項目を、事業者等の経営首脳者が中心となって、継続的・計画的に実施することで、事業場の安全衛生管理体制を確保しましょう。

新聞販売業における死亡災害の概要（抜粋）

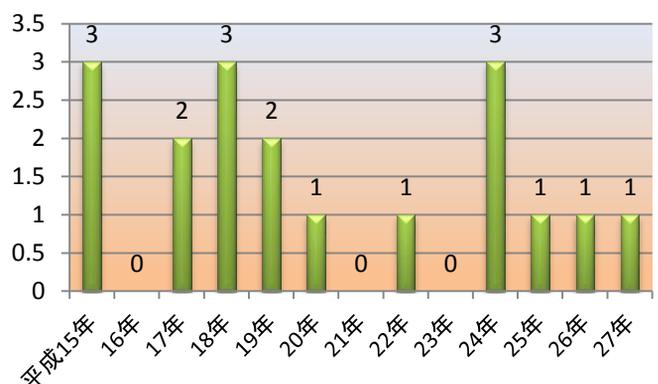
（平成15年～平成27年2月末現在）

発生年	発生月	事故の型	年齢・経験年数	災害の概要
	時間帯	起因物	事業場規模	
H15	1月	交通事故	50歳代・10年	被災者は、県道を配達のため原付バイクで走行中、前方を歩いてきた競馬馬に追突し、転倒した。その際、腹部を強く打ちつけ死亡したものの。
	4～5時	乗用車・バイク	10～49名	
H18	4月	交通事故	60歳代・7年	被災者は、バイクにて新聞配達業務中、国道を走行していたところ何らかの原因で転倒し、路上に倒れ込んでいたところ、後続してきた乗用車に轢かれたもの。
	3～4時	乗用車・バイク	1～9名	
H19	9月	交通事故	50歳代・2ヶ月	被災者は、バイクによる新聞配達業務が終了し、帰社途中に何らかの原因でセンターラインをオーバーし、対向車線に出たところ、対向してきた大型トラックと衝突したものの。
	6～7時	乗用車・バイク	10～49名	
H22	3月	交通事故	50歳代・5ヶ月	被災者は原付バイクにて朝刊の配達中、緩やかなS字カーブにさしかかる付近で道路沿いの川に転落し、その時の衝撃で頸椎を骨折し、死亡したものの。
	4～5時	乗用車・バイク	1～9名	
H24	6月	墜落・転落	60歳代・4年	被災者は、アパート2階に住むお客さん宅へ新聞を配達したあと、高さ約3m16段の階段を下りる際に、足を踏み外し、頸椎を損傷し死亡したものの。
	3～4時	階段・さん橋	10～49名	
	8月	交通事故	50歳代・2年	被災者は、新聞配達のため原付バイクにて走行していた際、右折のため片側1車線のセンターラインに近づいたところ、後方から時速約100kmで走行してきた乗用車に追突されたもの。
4～5時	乗用車・バイク	10～49名		
H25	2月	交通事故	70歳代・25年	被災者は、道路北側のお客さん宅に朝刊を配達したあとに、道路を挟んだ向かい南側のお客さん宅へ配達に行こうとしたところ、丁字路を南側から右折してきた軽トラックに轢かれたもの。
	4～5時	乗用車・バイク	10～49名	
H26	1月	交通事故	50歳代・6年	被災者は朝刊配達中、国道にて配達先の民家に入るためウィンカーを出し右折しようとしたところ、後方から走行してきた乗用車に追突されたもの。
	3～4時	乗用車・バイク	10～49名	
H27	2月	交通事故	60歳代・6年	被災者は50CCバイクで朝刊配達中、市道交差点にて赤信号のため、停止していたところ、後方から乗用車に追突されたもの。追突した乗用車はそのまま逃走したが、後日警察に逮捕され、逃走したドライバーからは、基準値を上回るアルコールが検出された。
	2～3時	乗用車・バイク	10～49名	

災害発生原因別



年別発生件数



新聞販売業における労働災害事例

事例1 見通しの悪い交差点にて、激突された

1.発生状況 被災者は、集金のためバイクで道路を走行中、信号機のない交差点で左側からきた乗用車と衝突し、全身を打撲し、死亡したものの。

2.原因 ・一時停止、左右確認が安全確認が不足していた。

3.対策 ・見通しの悪い交差点は、停止線で必ず一時停止し、その後徐行により交差点に近づいて、十分な左右確認（安全確認）を行うこと。



事例2 縁石に接触・転倒した

1.発生状況 被災者は、バイクにて朝刊を配達している際に、誤って路上の縁石に接触し転倒、頭部を強打したものの。

2.原因 ・運転方法・運転姿勢に誤りがあり、運転技術を過信していた。
・対処方法に対する教育が不十分であった。

3.対策 ・安全運転に関する教育を繰り返し、計画的に実施すること。
・新聞配達ヒヤリマップを活用し、危険箇所を洗い出し、安全運転等を周知徹底すること。



事例3 階段でバランスを崩し、転倒した

1.発生状況 被災者は、朝刊を配達しアパートの階段を降りていたところ、足を踏み外し、バランスを崩し転倒、頸椎を骨折したものの。

2.原因 ・階段を下りる際、手すりを使用しなかったこと。

3.対策 ・新聞束を持って階段を昇降する際は、出来るだけ片手（袋を使用する等）で持ち、空いた手で手すりを使用する、またはカベ際を昇降すること。





1. バイク運転中の交通事故を防ぎましょう

- (1) 交通事故の多くは、朝刊配達時のバイク運転中に交差点等で、自動車と衝突することなどにより発生しています。
- (2) その他、運転中の対向車線へのはみ出し、前方不注意、バランスを崩しての転倒・転落事故等が発生しています。

「交通労働災害防止のためのガイドライン」に沿った対策を進めましょう

1. 労働災害防止は事業者の責務です。事業者は、対策を積極的に推進しましょう。
2. 労働者は、事業者が行う安全対策に協力し、交通労働災害防止に努めましょう。
3. 事業者は労働者に対して、雇入れ時教育、日常の教育を徹底し、交通法規の遵守の徹底を図るとともに、交通労働災害防止のための知識を付与しましょう。
4. 事業者は、交通事故発生情報、ヒヤリ・ハット事例に基づき、新聞配達ヒヤリマップを作成し、配布・掲示、啓発等を行いましょ。
5. 事業者は、異常気象時には、走行の中止や安全な場所で一時待機する等労働者に適切な指示を行いましょ。



2. 配達、集金中の転落・転倒事故を防ぎましょう

転落・転倒災害防止のポイント

1. 事業者は、労働者に滑り止めのある靴を履かせて業務を行わせましょ。
2. 事業者は、時間に余裕のある配達計画を作成し、労働者が慌てることがないように業務を行わせましょ。
3. 階段の上り下りは、荷物等（配達中の新聞束も同様）を出来るだけ片手で持ち（袋を使用する等）、手すりを使用するか若しくは壁際を昇降しましょ。
4. 事業者は、転落・転倒事故が発生した場所の情報、ヒヤリ・ハット事例に基づき、交通事故と同様にヒヤリマップを作成し、配布・掲示、啓発等を行いましょ。

危険予知（KY）訓練を実施しましょう

危険予知訓練のねらい

交通事故を招いているのは、運転者の不注意や安全確認が不十分であったなどの様々な要因が重なって発生しています。

交通事故を起こさない運転をするためには、常に危険を予知することが重要で、かつ、それを回避する運転をすることが必要であることを労働者一人ひとりに認識させましょう。

危険予知訓練のポイント（「かもしれない」運転の励行）

1. 周囲の状況をよく見て、見えない危険を予知する

- ①危険を予知するためには、まず、周囲の状況をよく見て把握し、様々な情報をつかむことが必要です。
- ②特に、交差点進入時は、見えないけれども、その先に危険が存在している「かもしれない」ことを、考えるよう努めましょう。

2. 道路を利用する自動車や歩行者などの特性をよく知る

- ①危険を的確に予知するには、道路を利用する自動車や歩行者など、それぞれがどのような動きをするのか知っておくことが重要です。

3. 気象条件に潜む危険を知る

- ①雨や雪など気象条件により、同じ道路でも危険性は異なります。気象条件に潜む危険を知っておくことが重要です。

4. 先の状況に目を配る

- ①走行中には、前方・後方の車等の動きに注意するとともに、その先の状況にも十分配慮する必要があります。

危険予知訓練シートの事例

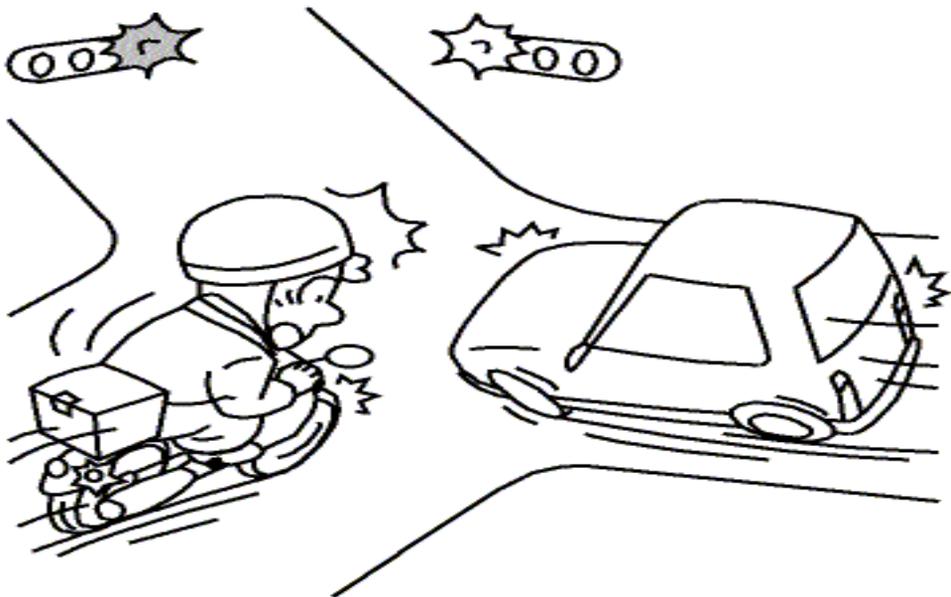
☆前のページポイントを参考に、シートに記入してください。

作業の種類

新聞配達集

ヒヤリ・ハットの状況

バイクで配達中、三叉路交差点で前方の信号が、しばらく青であったのでそのまま進入しようとしています。
どんな危険が潜んでいますか？



どのような危険が潜んでいるか	どのような運転をすれば良いか
例 乗用車が信号を無視して走行してくる。 信号が黄色に変わり、あわてて曲がろうとして操作を誤り乗用車と衝突する。	例 信号が黄色に変わるかもしれないので、減速し、左右を確認する。

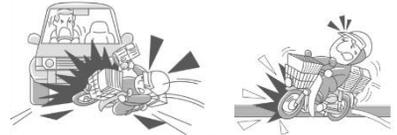
新聞配達ヒヤリマップ

を作成しましょう！！

交通事故の発生原因にはいろいろなケースがありますが、新聞配達中の「ちょっとした不注意」、「運転技術に対する過信」、「だろう運転」などにより、死亡災害が多く発生しています。辛うじて一命が助かるという場合もありますが、せき損等重篤な後遺症で苦しむこともあります。事故にならなくとも「ヒヤリ」とか「ハット」を経験したことは誰しも持っていることと思います。

そこで、このような交通事故を起こさないために、各販売店での労働災害防止対策（交通労働災害防止対策）の一環として、全員で新聞配達時における危険箇所の洗い出しを行い、その対策や注意すべき事項などを確認することが効果的です。

安全で健康な新聞配達ができるよう「新聞配達ヒヤリマップ」作りに積極的に取り組んでください。

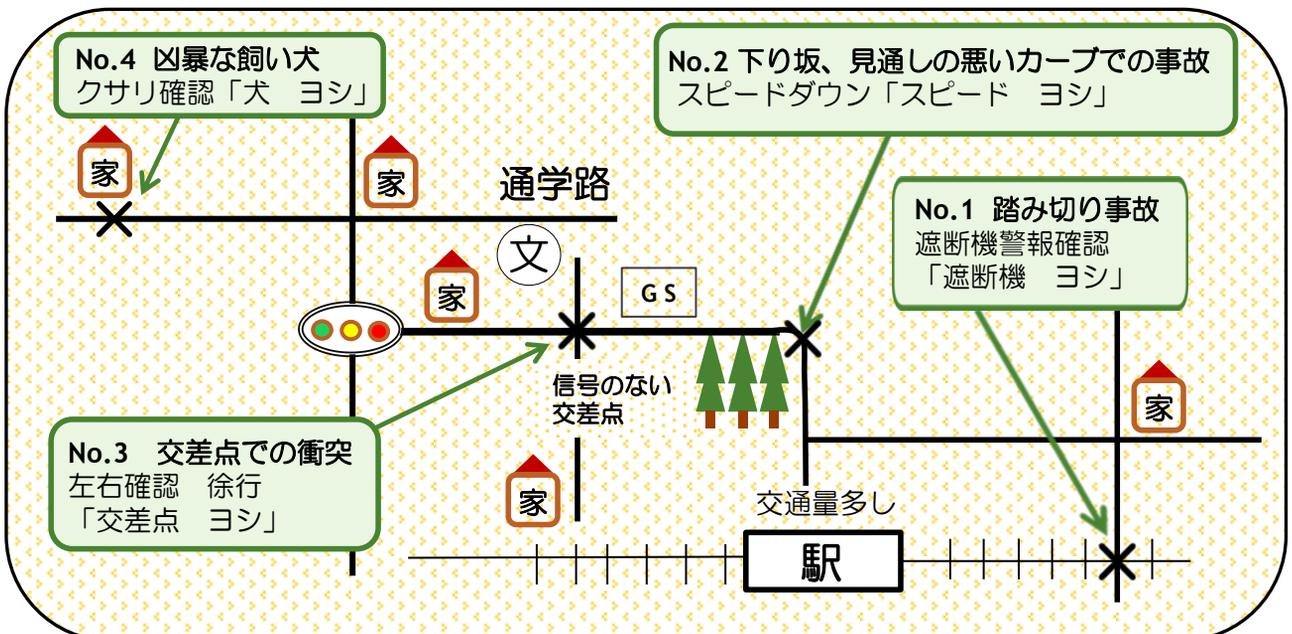


以下にヒヤリマップの作成手順と作成例を示します

項目	内容
① 新聞配達区域マップを配布	・マップを新聞配達員全員に配布する
② 配達経路を記入	・各人の配達経路は太い線 ・脇道は細い線 ・信号などの必要な地図記号を記入
③ ヒヤリ箇所を記入	・ヒヤリ箇所に×をつけ、番号で順番を記入
④ 対策と確認事項を記入	・作成したマップを新聞配達員全員に配布する

(注)季節、朝刊及び夕刊等で危険要素、危険場所も違うので、定期的に見直すことが必要です。

新聞配達ヒヤリマップ（例）



新聞配達ヒヤリマップ

経路 自宅→新聞店→配達先

配達者氏名 _____

所要時間 _____

分

km

作成年月日 _____

例 ヒヤリマップは、既存の地図を使用して、配達中にヒヤリとした場所や実際に事故を見かけた場所などに、「危険（赤）」、「要注意（黄）」などの印を付けるなど、できるだけ簡単に活用できるよう工夫しましょう。

記号を入れてわかりやすく！

配達経路



バス停



道路地図（白地図）のうえにおくときは破線



川



十字路、三叉路



学校



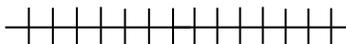
信号



郵便局



踏切り



ガソリンスタンド



駅・鉄道



駐車場



「あわてず、焦らず、急がない」
ゆとりを持った作業で
今日も一日
ご安全に！！

